

# 電子ブック購読タイトル可視化の検討

—国内医歯学系図書館の現状と、本学医学部学生用の指定教科書等リストの事例から—

城山泰彦  
順天堂大学図書館

## I. 背景と目的

近年急速に普及してきた電子ブックであるが、各図書館のウェブサイトを一覧すると、掲載方法や導入状況には違いがみられる。これまで順天堂大学図書館での電子ブック導入の取り組み例を報告してきたが、本発表では前回の発表で課題に挙げたアクセス経路の整備、具体的には電子ブックの可視化を検討する。医歯学系大学図書館の電子ブックの現状を分析した後に、本学の電子ブック購読タイトル可視化の取り組みを報告したい。

## II. 方法

電子ブックの現状について、「特定非営利活動法人 日本医学図書館協会 加盟館統計」の第 78 次（平成 18 年度）から第 83 次（平成 24 年度）を参照して、関係データを分析した。次に日本医学図書館協会非加盟館を含む、医学部・歯学部を持つ国内の全 96 大学の図書館ウェブサイトにアクセスして、関連する項目を調査した。調査項目は下記である。

1. 電子ブック契約タイトル数の変化（2007 年から 2012 年）
2. 図書館業務システムとリンクリゾルバの状況
3. 電子ブックの掲載方法 表記、タイトルリスト（タイトル、ベンダー、分類）等
4. 電子ブック所蔵タイトルの OPAC 搭載状況
5. 図書館ウェブサイトでの図書リスト掲載状況 シラバス掲載図書、推薦図書等

## III. 結論と考察

電子ブックの現状を一覧すると、契約タイトル数や掲載方法は、パッケージの導入が大きく影響していた。本学の電子ブックは、効果的な予算執行をめざして精選したタイトルを可能な限り個別タイトルで導入したため、ベンダーの数は多いが購読タイトル数は多くない状況である。本学では電子ブックの講義への活用が検討されており、4 キャンパス 6 病院を抱えるなどの事情から、電子ブックの利点を生かした蔵書構築を進める必要があると考えている。ただし電子版の提供が少ないうえに随時追加購読することが難しいなど、電子ブックならではの運用の難しさがある。たとえば、医学部学生用の指定教科書等リストには、冊子図書と電子ブックを混在させて表記する必要があった。購読タイトルの視認性を高めるために、冊子図書は図書館 OPAC へのリンク、電子ブックは当該タイトルへのリンクを張って、学内専用サイトで公開予定である。さらに電子ブックの可視化を進めるためには、検討中である電子ブックの OPAC 搭載など、まだ改善の余地があると考えられた。

- 1) 城山泰彦, 水嶋直子. 電子ブック選定の際考慮することがら: 順天堂大学での導入事例を通して, 医学図書館. 2011;58(4):297-303.